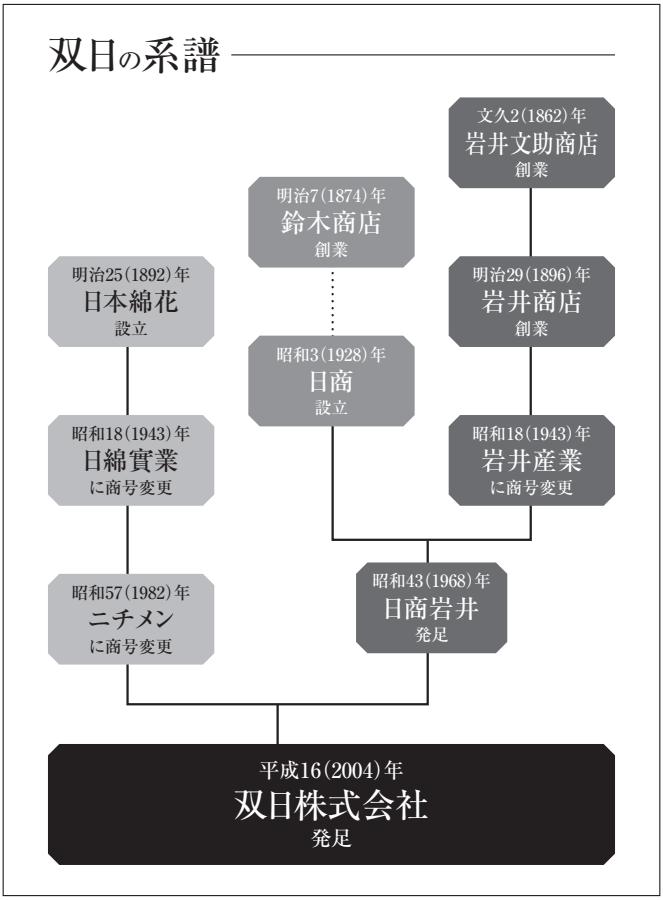
Hassojitz

総合商社 双日
未来を創造した先駆者たち

第2巻

黎明

sojitz 双日株式会社



本作品は、可能な限り史実に基づいて作成していますが、構成上、マンガ特有の表現、描写を用いている部分があります。
また、登場人物の台詞は、基本的に各史料から引用していますが、一部推測により作成しています。

前回までのあらまし
幕末
長い鎖国が終わり
西洋諸国との貿易が再開する
神戸の
外国人居留地には
双日の源流となる
鈴木商店の金子直吉と
岩井商店の岩井勝次郎が
出入りし
理不尽や侮辱に
屈せずそれぞれ
商売に
励んでいく
日清戦争が勃発すると
鈴木商店は
樟脳を目当てに
台湾に進出し
後藤新平と出会う
セルロイドの
生地を海外から
輸入していた
岩井商店も
セルロイドの
国産化に向けて
鈴木商店と組み
事業化を進めていく
一方、大阪の商人は
五代友厚の下で結束し
新たな産業として
紡績業に着目
さらなる
紡績業界の
発展のために
日本人による
綿花調達を目指して
日本綿花を設立した

第2巻では日清戦争を経て
八幡製鉄所の開業そして
日露戦争の勝利の後
鈴木商店・岩井商店・日本綿花の
双日の源流たる三社は
さらなる日本の近代化と
先進国の仲間入りを目指し
時代を疾走する――
sojitz
Hassojitz
発想 × sojitz

第1章　日本綿花　綿花を求めて、インド・中国・米国へ

まず綿花の調達先はインドからだ
渋沢さんや大隈さんから頼まれて私が視察にも行った品質に問題はない
日本綿花 社長
佐野常樹（さのつねき）

しかし社長 今は香港経由でインドから直行する船がありません これは危険です
確かにそうだ 直接調達を進めれば嫌がらせを受ける可能性があるな……

ありえそうなのは……
運賃の値上げ 積み替え地での意図的な遅延……

ううむ それでは日本綿花設立当初の目的が果たせない あくまでも日本人の手による調達と輸送が必要なのだ

佐野は広く働きかけを行なった
日本綿花の佐野さんうちにも声をかけてきたで
政府や渋沢さんにも働きかけているらしいじゃないか
さすがは二本松隊の生き残り※佐野常民に見込まれた男じゃ

※ちょっとこぼれ話参照（51ページ）

日本綿花　社長
佐野常樹（さのつねき）

インド・タタ商会
タタ財閥 総帥
ジェムシード・タタ

紡績業界の幹部
渋沢栄一（しぶさわえいいち）

佐野社長の思いは
実を結んだ

明治二六(一八九三)年
インド側の綿花供給者
タタ商会との間で
日本の紡績業界が
引取数量を保証する
ことで日印定期航路が
開かれたのだ

この航路は
ボンベイと神戸を
結ぶもので
日本郵船によって
運行された

神戸
香港
ボンベイ
コロンボ
シンガポール

佐野社長の指導的な
役割が評価され
日本綿花はインド綿の
取り扱いにおいて
業界トップを
誇るようになった

日本綿花は
佐野常樹のあと
二代目社長として
「大阪財界の三大巨頭」
といわれた田中市兵衛が
就任することとなった

次の社長は
田中市兵衛さんか
どんな人か
知ってるか？

田中さんと言うたら
薩摩の松方正義
長州の伊藤博文
桂太郎とも関係が深いし
五代さんと一緒に
大阪の発展に
尽力されたお方や

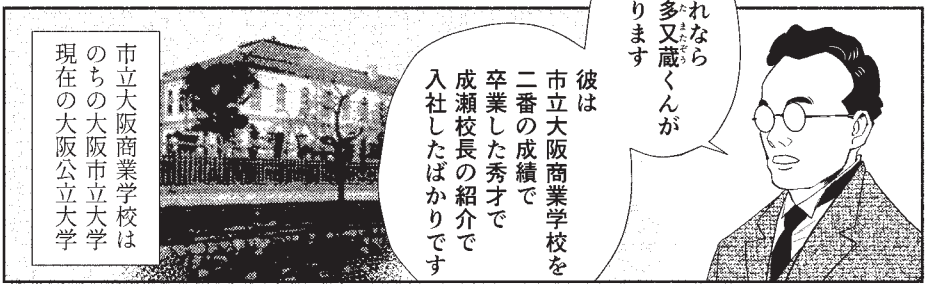
ほお～
それはすごい人やな！

あとは
曲がった事が
大嫌いやと
いう話や

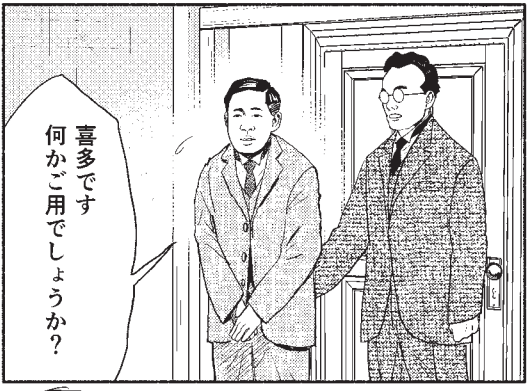
阪堺鐵道
（現・南海電気鉄道）の
線路がまっすぐなのは
創立に関わった
市兵衛さんの性格から
来ているらしい

社長に就任した
田中市兵衛は
さっそく新たな
手を打った
若手の登用である

優秀な学卒者を採用しろ
これからは
世界と戦うんだ
社内に優秀な若手は
いないのか？


それなら喜多又蔵くんがおります
彼は市立大阪商業学校を二番の成績で卒業した秀才で成瀬校長の紹介で入社したばかりです
市立大阪商業学校はのちの大阪市立大学現在の大阪公立大学

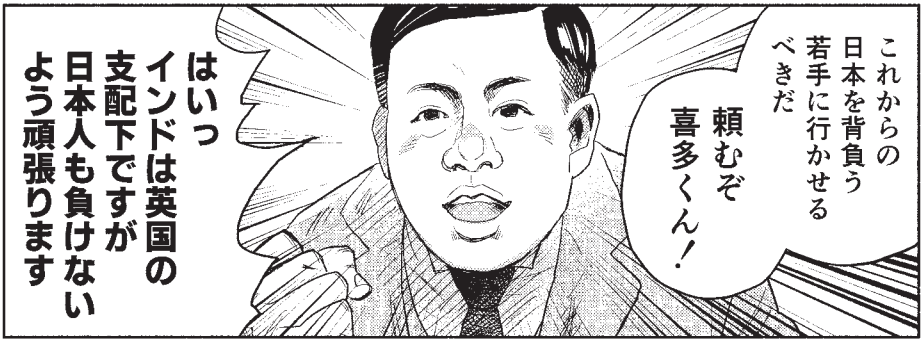
喜多君は奈良県葛城村の出身ですがお父上はあの喜多長七郎氏であります
なんと十年の歳月をかけて大果樹園を拓き南和鉄道の敷設にも尽力されたあの喜多氏の子息か早速呼んでくれ！


喜多です何かご用でしょうか？

君はうちの会社でいったい何がやりたい？

……では申し上げます社長
私を海外に遣ってください

よし、喜多くん
君に命じる
インドのボンベイに
行ってくれ
!!
社長っ
喜多くんはまだ入社二年目
十九歳です
しかもボンベイに日本人は
まだほとんどいません
だから行かせるんだ
日本の紡績業は今後も
発展するそのためには
インド産の綿花が重要だ


これからの
日本を背負う
若手に行かせる
べきだ
頼むぞ
喜多くん！
はいっ
インドは英国の
支配下ですが
日本人も負けない
よう頑張ります

こうして
明治二九（一八九六）年
喜多又蔵の
ボンベイ行きが決まった
喜多はその後
足掛け六年にわたって
インド綿の調達に
奔走する

明治三五(一九〇二)年
上席係長となっていた
喜多又蔵は
帰国の途につく

インドは
目処がついた
しかしただで
日本に帰る
わけにはいかない
帰りに中国に
寄ることにしよう

しかし
喜多係長
会社からは
帰国せよ
と……

心配ない
新社長には
きちんと
連絡してある
分かって
いただける
だろう

このとき
日本綿花の社長は
田中市兵衛の息子
市太郎がつとめていた

辰野金吾が設計した
本社ビル

インドの
喜多上席係長
からで
ありますか?

ああ
帰路に中国に
寄ると
書いてある

ええっ
やっと帰国できる
というのに……

喜多くんによると
次は中国だそうだ
父も信頼している社員だ
彼の目に
間違いはなかろう

喜多は
上海、漢口を視察し
中国の綿花市場に
ついても調査を
行なった

帰国後の重役会議で喜多は役員たちに報告した

これまで中国は綿花の供給基地でありました

しかし今や日本の紡績業界は国内の需要を満たしいよいよ海外に綿糸・綿布を輸出することによって成長が求められます

そのためには我々が新たな市場の前線に立ち開拓しなければなりません

そこで私はここに上海支店の設立を提案いたします！

何っ！しかし君今やわが国はロシアとの対立が激化しいつ戦火に巻き込まれるかも知れんのだぞ

いいえここで怯んではなりません中国は人口も多く日本にも近い市場として極めて有望です

それはそうだが……

中国市場を開拓しなければ日本の海外進出日本の加工貿易の発展日本の貿易立国の礎づくりは永遠にやってきません

また、中国は綿花だけでなくさまざまな資源が豊富にあります

中国進出は日本綿花の多角化のためにも必要なのです!!

——分かった

日本の未来を背負い上海支店を設立しよう

こうして日本綿花は明治三六(一九〇三)年に上海支店を翌年には漢口支店を設立喜多は二八歳の若さで支配人に抜擢された

そして日本の中国向け綿糸、綿布輸出も開始しその後拡大し続ける

いよいよ日本人が作った工業製品が海外に販売される

これが日本人の豊かさの源泉になるんだ

いっぽうで中国は綿花の供給基地として依然重要であった

綿花に水をかけて分量をごまかす華商もいるプレスをかけて水分を除去してから日本に送るんだ商売は信頼を得たものが勝つ

こうした独自の取り組みもあり日本綿花は中国綿の取り扱いでもトップに躍り出た

その後、喜多は中国の市場としての有望性を本社幹部に説き青島、天津、香港大連、牛荘、鉄嶺、長春、など次々と拠点を配備

日本の商社で最大級の拠点網を構築した

拠点網の構築だけ
では終わらなかった

綿花からは
油だってとれる
これを見逃す
手はない

日綿は
中国全土への
展開とともに
商品の多角化も
進めたのであった

喜多の進めた多角化は
大正六(一九一七)年
日華油脂(現・J-オイル
ミルズグループ)の設立
にもつながっていく

明治四三(一九一〇)年
田中市兵衛は
死の床にあった

あとは任せた
次は君たちの
時代だ
日本の産業を
……頼む

喜多君

はい
微力では
ありますが
粉骨砕身
いたします

はは
なにが微力だ……

市太郎は二年前に急逝し
市兵衛が再び社長に
就任していた
喜多は大きなものを
託された

後任の社長には志方勢七が就任
喜多は取締役に昇格する

日本綿花は
アドレナリンを開発した
高峰譲吉さんを頼って
日本で初めて
米国産綿花を調達した
アメリカは
世界最大の産地だ

やはり
さらなる拡大を
図るには……

アメリカだ!!

ついでに
私は世界一周出張
してくるとしよう

取締役となって以降も
喜多は自ら現地に
行くことを好み
たびたび海外を視察した

しかし
アメリカに拠点を
築くためには
駐在員が必要だ
山川くん
行ってくれるか?

山川萬吉（やまかわまんきち）

もちろんであります!!

ドッ

喜多の指示を受けた山川は
ニューヨーク綿花取引所に
日本人として初めて入会

日本綿花も
明治四三(一九一〇)年
テキサスのフォートワースに
出張所を開設した

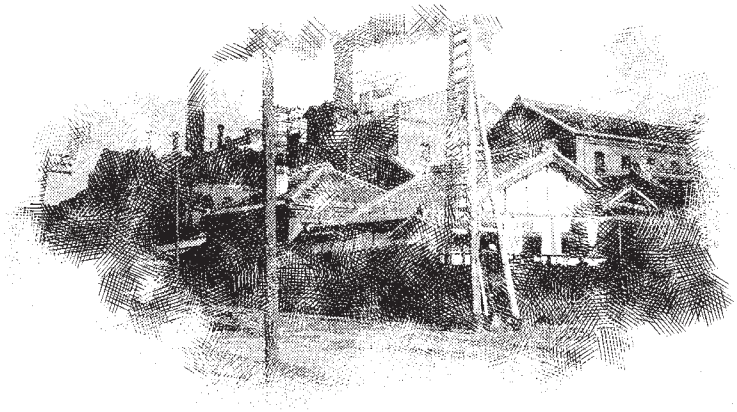
テキサスの夏は
長くて蒸すのう……

しかしこれも
日本を富ませるためじゃ
こんなところで
へこたれるわけには
いかん!

大正元(一九一二)年当時
日本の工業の五割は
紡績業といわれた

そして綿花輸入の
トップレベルを誇った
日本綿花は大きく
業界を牽引したのだった

第2章　鈴木商店　関門海峡へ



鈴木商店は創業以来輸入品の砂糖を取り扱い国内では渋沢栄一らが設立した日本精糖から調達していた

日本精糖専務め……芸者遊びを用意しないと買えないしかも言い値じゃ外国の商館より質が悪いこうなったら自分で作るぞ

金子直吉が目をつけたのは九州の門司に近い大里(だいり)だった

あそこには良質な水があり石炭も労働力も豊富だ原糖の輸入にも適している大里ならコスト面で大阪の日本精糖に勝てる

商売の基礎には地理的条件が必要だ

そして明治三六(一九〇三)年大里製糖所(現・関門製糖)の設立に至る

何!? 鈴木商店が? ふん あいつらにはできんよ……そうだな「大里の水にはアンモニアが入っている」とでも噂を流しておけ

その噂は大里製糖所建設中の鈴木商店の耳にも入る

あいつらこんな噂を流しているらしいです

ガコーン

そんなものほうっておけばいい

ガコーン

我々は事業に邁進すればいいこの煉瓦一枚がいずれ馬蹄銀一枚になるっ!

噂はともかく
肝心の砂糖の製造が
うまくいかないことは
金子直吉を
おおいに悩ませた

うーんなんで
固まった砂糖しか
出てこないん
じゃ……

しかし改善する
技師も職工も
大里にはおらん

!?

まず砂糖製法の秘訣は
砂糖の色素を取り去り
無色透明にしてこれに
硫酸を加えて
ブドウ糖に変化させる
これを「ピスコ」という
この流動体を下から
ピストンで押し上げて
噴霧状態にして吹き込む

砂糖が
固まるのは
「ディスイン
テグレーター」
という砂糖を
撹拌する機械を
……

素晴らしい!!
君はいったい?

……実は私は
日本精糖の
職工なんです

なんと!?

ご存知の通り
専務は芸者遊び
ばかりです
そういう人に
使われるのは
もう嫌で暇を
取って来ました

金子さんは品行方正で
日夜真面目に
事業のために奮闘して
おられると知り……

私らが酒や女を顧みず
日夜真面目に働くのも
幾分でも世の中のために
なりたいと思うからだ

さあ
一緒に働こう
やないか!

こうして様々な
困難を乗り越え
大里製糖所は
砂糖生産に成功した

高品質の砂糖の生産が可能になると大里製糖所のシェアは一気に拡大する

慌てた大日本製糖（日本精糖が他社と合併し社名変更）は大里製糖所との合併を申し入れるも金子は拒絶

金子さん もう勘弁してください

元はと言えば……まあそこまで言うなら仕方ない

明治四〇（一九〇七）年鈴木商店は大里製糖所を六五〇万円という高値で売却した

投資金額二五〇万円に対して四〇〇万円もの利益をあげしかも大日本製糖の一手販売権獲得も得た

なお売却資金のうち四〇〇万円は大日本製糖の社債で得ることになった

残りも早く現金にして次の事業を始めたいところだが……

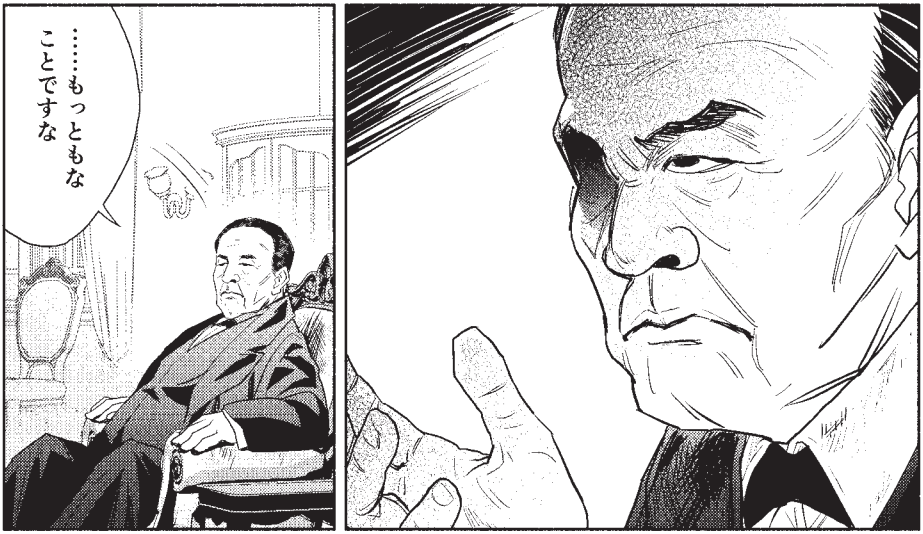
しかしその後日糖事件という政治汚職により大日本製糖は経営危機に陥った

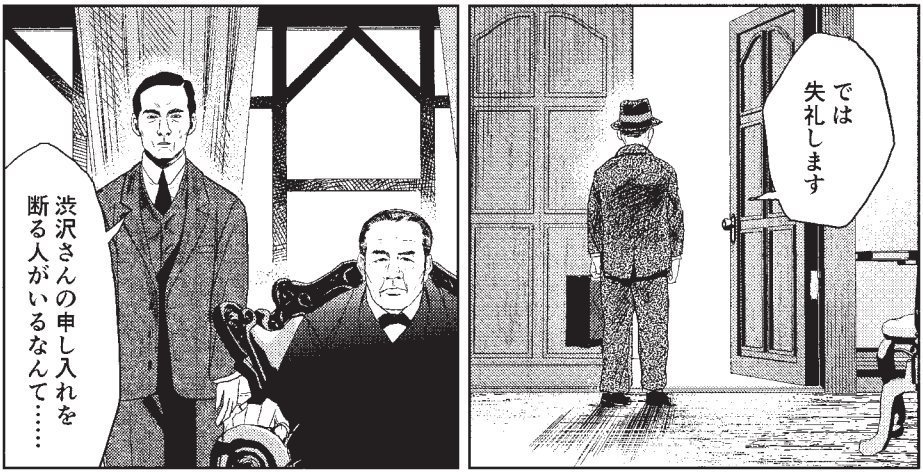
そこで財界の重鎮渋沢栄一は大口債権者である金子直吉を飛鳥山の自宅に招いた

金子さん大日本製糖の社長をお願いしたい

いくら渋沢さんの頼みとはいえこれはお断りします

鈴木商店は日糖の大債権者でもあります私が整理に当たると原告と被告が一緒になるようなものです


……もっともなことですな


では失礼します
渋沢さんの申し入れを断る人がいるなんて……

金子直吉……学問はないかもしれんが事業家としては天才じゃ

第3章　洋服、鉄への憧れ

岩井商店の
岩井勝次郎は
外国商館を通さない
取引を続けていた

海外の商社と
直接貿易を開始

岩井サン
海外と直接なんて……
我々を通してもらえれば
あなたが直接買うのと
同じ値段で販売します

NO

我々は日本人の
ために働いている

人の足元を見て暴利を
むさぼるあなたたち
とは商売することは
できない

そのなかで
明治二九(一八九六)年
鉄鋼製品の輸入を
開始したのを皮切りに
英国のダフ商会から
USスティールの薄鉄板、
軟鋼板、軟鋼棒、帯鉄を
ハンブルグの
ホイエル商会から
針金等を輸入する

岩井商店は
最初の鉄鋼商社
と呼ばれた

いつか
自分の会社で
作って
みたいものだ

しかし
鉄は日本には
まだ無理か……
時期を待とう

そして
明治三三(一九〇〇)年
岩井勝次郎は
初めて外遊に出る

パリ万博の
見物をかねて
欧米諸国をまわり
貿易業者の目で
産業経済界の
実態を確認した

西洋人はみな
洒落た装いだ……
そして何より
鉄の需要が大量に
ある

この外遊
無駄にしてはならん

外遊の記録は
「店主洋行緊要誌」
としてまとめられた

奇しくも翌年
日清戦争の賠償金の
一部で建設した
八幡製鉄所
（現・日本製鉄）
が操業を開始する

日本もいよいよ「鉄の時代」の幕開けや

ふん しょせん官営や民がやらねば

岩井商店
鈴木商店とも
八幡製鉄の
指定問屋となる

のちに鉄に強い商社
カネヘン商社と
いわれる由縁である

その頃
岩井商店の
輸入毛糸のシェアは
9割を誇っていた

鉄をつくりたいが投資金額の桁が違う さすがにリスクが大きい まず輸入毛糸から莫大小（メリヤス）製品をつくろう ヨーロッパではニットというらしい

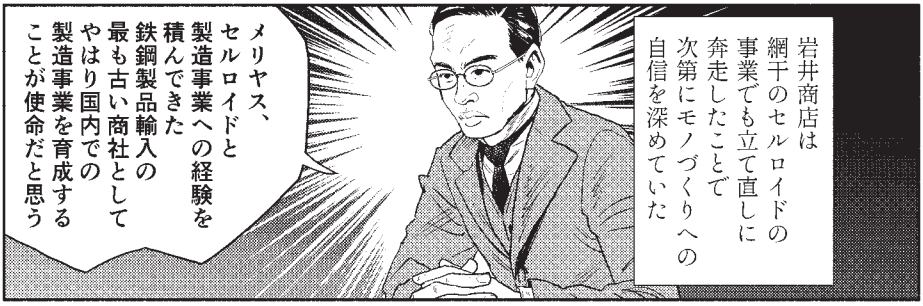
皆が喜ぶ高級なものをな 肌着、ズボン……日露戦争に勝った日本には西洋なみの身だしなみが必要だ

明治四〇（一九〇七）年
東京の大崎にあった
白金莫大小製造所
（現・トーア紡
コーポレーション）の
経営に参画する

よし 義父の岩井文助のB その奉公先の加賀屋のK KBブランドとしよう

KB

岩井の商品は高級品として評価が高くヨーロッパの製品よりもよいと評判ですよ
職人さんと心を合わせてよいものを作っているからなモノづくりの基本だ
その品質のよさは大正天皇にも認められるほどであった
天皇陛下に乗馬用ズボンを献上することが決まった
なんと光栄なことか！
岩井商店はニット界の草分けとして知られ販売量を大きく伸ばしていった


岩井商店は網干のセルロイドの事業でも立て直しに奔走したことで次第にモノづくりへの自信を深めていた
メリヤス、セルロイドと製造事業への経験を積んできた鉄鋼製品輸入の最も古い商社としてやはり国内での製造事業を育成することが使命だと思う

そして大正元（一九一二）年亜鉛鉄板事業を育成するため大阪桜島にあった融資先の亜鉛鍍株式会社（後、日新製鋼、現・日本製鉄）に経営参画する
よし岩井の資金で工場を拡大しよう
一気に工場は拡大後に大阪鉄板製造に社名変更し岩井勝次郎は社長に就任した

鈴木商店も製鋼業に参入することになる

よしっ 国がやるべきことを鈴木がやる 鈴木も鉄じゃあ

鈴木商店は製鋼業を試みる小林製鋼所に建設資材、機械の購入で協力し融資した

しかし来賓を招いての小林製鋼所の出鋼式は……

炉の口がふさがり失敗たちまち経営難に陥った

明治三八(一九〇五)年鈴木商店が買収し神戸製鋼所を創立

田宮くん悪いが大里製糖所から戻ってきてくれ神戸製鋼所の立て直しを頼みたい

えっ? は、はいっ わかりました!!

実は金子さんは西宮紡績の買収を狙っていたのだ しかしある日新聞で他社に売られたと出てそれで放心状態になってしまったらしい

そこに小林製鋼所の話があって製鋼業の至難なことも多額の資金を必要とすることも一向頓着なしにスラスラと引き受けてしまったらしいのだ

はあ……

しかし鉄鋼業は国家的な事業でもあるし むざむざつぶしたくはない

神戸製鋼所の支配人に任ぜられた当時田宮は僅か31歳の若さである

引き受けたからにはしっかりやる 諸君もよろしく頼む!!

!!

はいっ!

金子は期待をした若手を積極的に抜擢した

しかし技術や設備の問題もあり神戸製鋼所は赤字が続いた

うーん……そうや！日露戦争の旅順封鎖で沈んだ船をスクラップ原料として使えないか？

田宮は金子直吉譲りの行動力で旅順に飛んだ

これは……さすがに引き揚げが大変そうや曳航も考えたらコストが合いそうもないな……

そんなわけで旅順の沈んだ船はあきませんでした……

田宮くん結果は残念だったがその発想力は素晴らしいめげずに続けるんや

しかし神戸製鋼所が軌道に乗るまでにはまだ一苦労を要した

田宮さん大変そうじゃのうわしは遊びをやめて田宮さんについていくって決めたんじゃがのう

三輪組創業者
三輪徳太郎（みわとくたろう）

田宮はなお悲観的であったが金子直吉は諦めなかった

金子さんやっぱり閉鎖も視野に入れては……

いや西洋諸国でも当初は困難だったのが製鉄じゃ

それが今はどうだ成功しているだろうあまり悲観しちゃいかん

同じ神戸の松方幸次郎さんを見てみい川崎造船所のガントリークレーンはすごい

松方さんとこで作った水雷艇が日本海海戦でも大活躍やった

でもわしは鈴木の人材と情熱が松方さんところに劣るとは思わん

ん？そうじゃ、海軍じゃ松方さんといえば薩摩じゃ海軍じゃ！

よし依岡くんを呼ぶんや!!

依岡？

金子直吉が白羽の矢を立てたのは同じ土佐出身の依岡省輔であった

なんでもやります私の得意技は特にありませんが体が大きいから人並み以上に飯を食うこと

あとは知事や将軍を説き伏せることくらいでしょうか……

おもろいっ

では呉海軍工廠の伊地知少将らを口説いてこい

海軍少将でありますか？

おうとも松方さんから紹介してもらって吉井幸蔵伯爵と話をつけてある

あの坂本龍馬とお龍さんの新婚旅行で霧島に案内した方やお父上は西郷さんの幼馴染の吉井友実さんやツテはバッチリある

わかりました必ず口説き落としてまいります!!

金子さんのところには妙な人が集まるのう？田宮さん

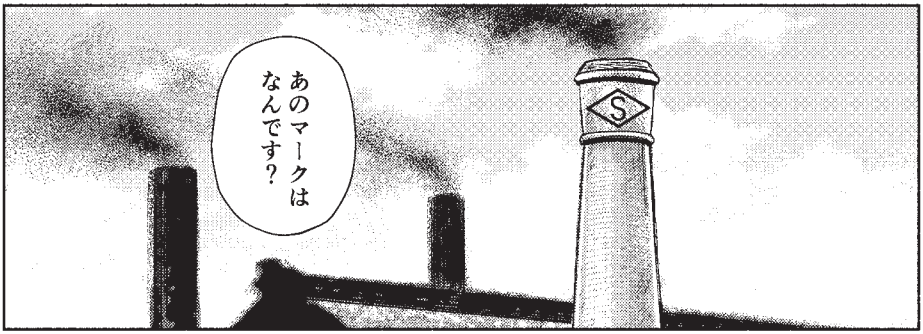
君もな三輪くん

それが鈴木の良いところだし強さの秘訣なのだろう

依岡の接待作戦は成功し呉海軍工廠だけでなく舞鶴、横須賀、佐世保海軍工廠からも受注を受け神戸製鋼所は大発展していくことになる

金子さん大里製糖所の売却の話を聞きまして……その一部でっかい設備投資させてもらえませんでしょうか？

田宮くんわかっとる今は三トンハンマーやろ一二〇〇トンプレスに一気に引き上げたいんやろ設備はどんどん増強や！


あのマークはなんです？

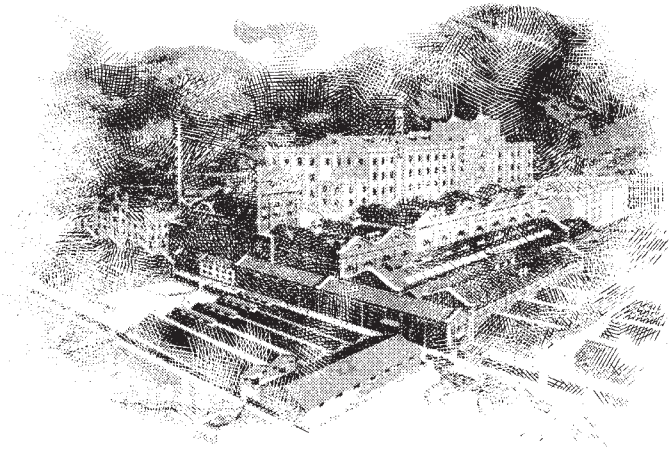
ひし形にS、だろう？ひし形は米という字からきている鈴木よねさんだなこれは大里製糖所と同じマークなんだ大里製糖所の成功を神戸製鋼所に重ねたい……
つまり金子さんは神戸製鋼所に命をかけているということだ
それは……私らも生半可ではいけませんな一層気合を入れないとなんやら優秀な学生さんも採用されたということですし

神戸高商（現・神戸大学）を出た高畑誠一くんのことか耳が早いな愛媛の内子町出身で英語を学んで神戸高商の卒業式でも英語で挨拶したらしい同学では永井幸太郎ってやつも優秀だとか
それから本当は出光佐三（後・出光興産店主）という学生が欲しくて高畑くんから誘ったそうだが合格通知が遅れて鈴木商店入店を諦めたらしい惜しいことをしたな……

神戸高商は優秀な学生が集まる鈴木商店さんはますます人材の宝庫になりますやろな
この頃鈴木商店には次代を担う優秀な学生たちが続々と入社していた

第4章　鈴木商店

小麦、ビール、新たな食文化への挑戦と多角化



やあ、金子さん
鈴木商店は
絶好調ですな
亀井堂本店
いやいや松井さん
それほどでも……
何をおっしゃいますやら
札幌製粉と東亜製粉も
買収されましたし
亀井堂は鈴木商店から
いただく砂糖、小麦が
あらへんとせんべいが
つくれまへんわ
亀井堂総本店 創業者
松井佐助
それは逆ですよ
神戸にハイカラで
美味しいおせんべいを
広めたのは佐助さんです
このおせんべいなしに
いまの私はありません
……そういえば
居留地の
外人さんが
パンの文化を
持ち込み
ましたけども
これから日本人にも
パンが広がるかも
しれませんね
いやいや
話を逸らさんで
くださいよ
聞いてまっせ
北九州の
大里製糖所で
大儲けとか
私は儲けた金は
すべて事業に
つぎ込みます
大里に大規模な
製粉会社を
立ち上げよう
かと

食の西洋化を見越すんです

はじめまして米田龍平です

きみがドラゴン米田か19歳でアメリカにわたり製粉技術を学んだというのは聞いている

次は君の技術を鈴木のためにいや、日本の食の豊かさのための力に変えてくれんか

……僕は金子さんの「生産こそ最も尊い経済活動」という言葉に感銘を受けました

製粉のことならお任せください！

金子直吉はさまざまな分野で多彩な人材を発掘していった

明治四四(一九一一)年大里製粉所(その後、現・ニップンに合併)を設立

米田の指導により「赤ダイヤ」「緑ダイヤ」の製品を売出したちまちに各地に広まった

同じ頃
門司の実業家により
地元にビール工場
建設の計画が
立てられていた

地元でビール工場を作ろうとしたのですがすぐ資金に行き詰まってしまいました

鈴木商店のこの門司大里での活躍は著しくぜひ九州初のビール工場を作ってもらえないでしょうか……

厚かましいお願いなのは承知しております

なんでも相談してもらえるのはありがたいもんやそんな恐縮せんでください

ということは……

まず大里製糖所から出る原料を使ったらどうだろう

建築は前田金次郎に任せればいい彼は要塞みたいなレンガ造りのでっかい工場をつくるぞ

あっ！あとな
アルコールって実は
爆薬原料になるんや
工業用需要も増える
この際
焼酎もつくろう
焼酎蒸留のための
発酵原料（糖蜜、
フスマ、ビール酵母）は
隣接する大日本製糖
だけじゃなく
大里製粉所
今度建設する
ビール工場から容易に
調達できるじゃろ
実は宇和島の芋から
焼酎を作る会社も
鈴木が買おうと
思ってるんや……

金子直吉の動きは
ここでも素早かった

前田金次郎
今回も煉瓦づくり
で頼むぞ！

お任せ
ください!!

港湾荷役
物流は池田源次に
任せたぞ！

へいっ
合点です!!

さすが
鈴木商店や……
なんという速さだ

しかも発想力が
尋常ではない
それを実現する
力もある

金子直吉
歴史に残る男
じゃないか
あれは……

おうー みんな 気張ってくれ！

いい酒を作るには いい工場が必要や

へいっ

お任せ くださせえ!!

大正元(一九一二)年
帝国麦酒
(現・サッポロビール)
設立

大正三(一九一四)年
大里酒精製造所
(現・ニッカウヰスキー門司工場)を設立

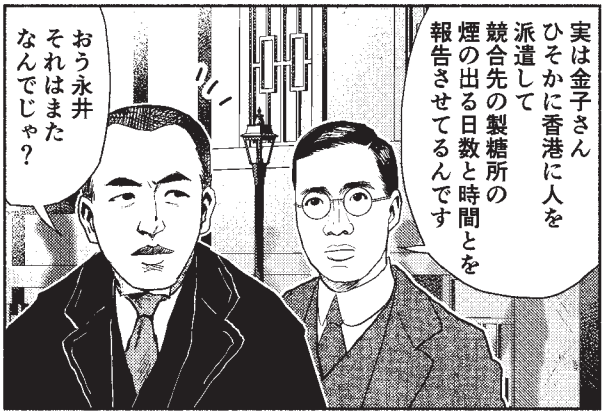
大正六(一九一七)年
宇和島の
日本酒類醸造を買収

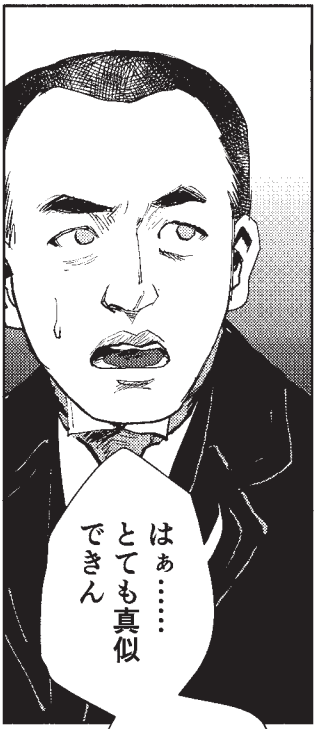
ダイヤ印の焼酎と
日の本焼酎の
2大ブランドは
売れに売れた

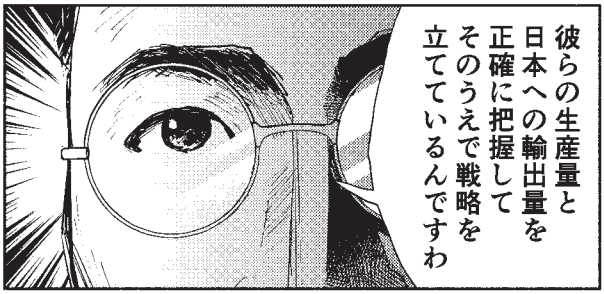
帝国麦酒のブランド
「サクラビール」は
全国約一割、第三位の
シェアを誇った

サクラビール
このサクラビールは純ドイツ式に醸造したものである！
さあ皆様がたいっぺん飲んでごらんなさいっ

あの人一滴酒も飲めんのに自ら一線で営業するとは……
支配人
西川文蔵
サクラビール


実は金子さんひそかに香港に人を派遣して競合先の製糖所の煙の出る日数と時間とを報告させてるんです
おう永井それはまたなんでじゃ？


はぁ……とても真似できん


彼らの生産量と日本への輸出量を正確に把握してそのうえで戦略を立てているんですわ

あの人は営業の神様でもあるんじゃな……

神戸の脇浜には
鈴木よねの
別邸があった

ガヤ

ガヤ

ガヤ

金子さんは
阪神と関門海峡は
鈴木のマークで
埋めると言ってます

そうじゃ
大里は鈴木の牙城だ
まだまだ鈴木の城は
でかくなるぞ

それと
台湾もだねえ

鈴木よねはここに
社員や関係者を
招くことがあった

お家さん

あっ
お家さん
すいません

気にせんと
飲みなさい

台湾は
後藤新平さんとの縁で
製糖工場を次々と
鈴木で買っていますから
大里製糖所を売却しても
鈴木の砂糖は
まだま伸びますよ

台湾は砂糖向きの
気候ですからね

台湾といえば
桂首相おるじゃろ
元台湾総督や

金子さんは
桂さんの縁で
台湾産塩の販売権を得て
今度は日露戦争後に
租借地となった
中国関東州（遼東半島）で
大規模塩田開発
やるらしい

砂糖の次は塩！
そのうち食卓が
鈴木で埋まりますね

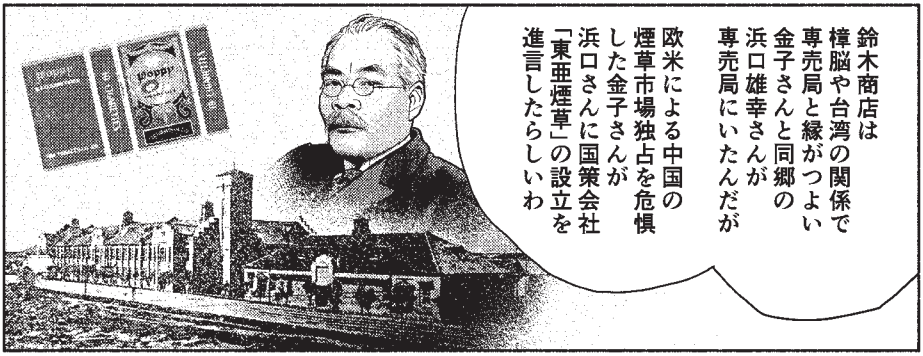
はははは

そうなるかもしれんな
鈴木の大日本塩業
（現・日塩）
先が楽しみやのう

では
大里にもある
再生製塩工場
その原料の塩は
台湾と関東州から
持ち込まれて
いるんですね

そうやな
あと煙草じゃ

鈴木商店は樟脳や台湾の関係で専売局と縁がつよい金子さんと同郷の浜口雄幸さんが専売局にいたんだが欧米による中国の煙草市場独占を危惧した金子さんが浜口さんに国策会社「東亜煙草」の設立を進言したらしいわ



……はあ～
それにしても
鈴木商店は
大里製糖所の設立から
すごい躍進ですね

後藤新平さん、
渋沢さん、桂さん、
浜口さん……
日本を動かして
いる人ばかりじゃ
ないですか？

すべて金子さんの
おかげだよ

永井、
あんた若いけど
鈴木は年齢
関係ないんだよ

あんたの同期の
高畑がロンドンに
赴任した

まだ25歳だけど
すぐに
ロンドン支店長に
なるらしい

鈴木は若い力
……

永井
あんたたちに
期待してる
からねっ

はいっ
私も励みます

高畑も大英帝国に
挑むと張り切って
行きました

高畑が
なんだってえ？

田宮さんも
一二〇〇トン
プレスを買いに
渡英するんやぞ

ははは

西川あんたは
数字と管理は
しっかり頼むわよ
あんたは直どんと
逆のタイプだから
いいのよ

はいっ！

明治四一（一九〇八）年
海軍大観艦式の際の
写真が残っている

その折も多くの社員が
この別邸に集まっている
人材を大切にする
鈴木よねの人柄を
知ることができる

そういえば金子さんは相変わらず人工的にシルクを製造する人絹に拘っているそうで……

そやそや金子さんを訪ねてた専売局の若者の秦っていたやろああみえて東京帝国大学応用学科を卒業した秀才らしい

東京帝国大学応用化学科の秦逸三といいます

神戸税関出て樟脳専売局や神戸税関勤めましたが自分の能力を活かして何かやってみたい

何かおもしろい仕事はありませんか？

あの後専売局を退職したらしいんやけど……

……では人造絹糸を研究してみてはどうじゃ？

秦は米沢高等工業学校応用化学科の講師として赴任した

秦先生、研究ばかりやっていないで授業をしっかりやってくださいよ

人絹？そんなもん日本人がつくれるか秦君、研究室の薬品を使うの禁止する

しかし赴任先でも研究に没頭していた

ちっ日本を文明国にするために大事な研究なんだ……なぜこの価値がわからない……！

秦は研究に没頭するあまり自費で薬品を購入し米を買うお金すら使ってしまった

ぐうう～

……

……

うーん……
そういえば鈴木商店に
私の帝大同期の
久村清太がいるはずだ
在学中に取得した
艶消レザーの特許が
鈴木の目にとまって
会社を立ち上げたはず
たしか東レザーと
いったか……
やつに頼ってみよう
ぐう〜

秦から手紙？
これは
人絹サンプルか
大変なようだ
ともかく
金子さんに
見せてみよう

このとき秦が
送ったサンプルは
まだ製品化には
遠いものであった
金子さん
秦からこんなものが
光沢も強度も
ないんですが……
ほーせやけど
糸には相違はない
大したもんや

久村お前
秦と同じ大学の
同じ学科だろう
助けてやって
くれんか？
なんか
いやな
予感…
……はい
わかりました
秦の人絹研究は
鈴木商店の援助で
なんとか続け
られることになった

金子さん、いわれた通りその後も秦は人絹の研究を続けておりますただ研究資金が足りないと……

まあ農商務省の補助金申請は時間がかかる鈴木が出してやろう

ありがたいこれで研究が続けられる！

資金を得たものの秦の研究は困難を極め疲労と二硫化ガス中毒のため幾度も倒れることになる

こんなことでへこたれてたまるか

また研究に没頭するあまり講義を忘れるようになり周囲の反感もより高まっていった

大竹校長先生また秦先生が講義に来ていません……

仕方ない私が代講してやろう彼は遊んでいるわけではない日本人の未来のために研究しておるんじゃ

いずれ化学の重要性をみな理解するじゃろ……

校長は秦の研究に理解があったが学校全体としてはそうではなかった

学校側が三万円の追加寄付を断ってきました秦がこれ以上人絹の研究をするのを嫌がっているそうです

ほー……おもろいいいか、日本の繊維原料は全部輸入じゃ

国産原料による繊維しかも化学の力で安くシルクをつくる

これは絶対あきらめない

秦の研究はなんとしても続けさせるぞ

はいぃ……

……とまあこんな感じでな東京帝大応用学科の天才とこれもまた天才の金子さんの劇を見ているようなもんでな

金子さんがそこまで入れ込むのならきっとすごいことが起きますよ

うむ実は俺もそう思っとる

人絹が実用化されるのはまだしばらく先のことである……

そういえば鈴木商店が傭船ではなく自社船舶を保有し世界中の海に船を並べるとか噂になっていますよ

そうやまだ始めたばかりだが富国丸、靖国丸、帝国丸、報国丸の五〇〇〇トン級四隻、建国丸ほか三〇〇〇トン級三隻を保有しているんじゃ

初めて大西洋を日本の自社船で渡ったのが鈴木だぞ

帝国丸は神戸からのブラジル移民船に使われたし

イギリスの海峡植民地(ペナン、マラッカ、シンガポール)からイスラム教徒に巡礼船として報国丸、帝国丸も提供した

鈴木の船が世界から愛される船になるといいですね……

きっとなる鈴木ならやれるさ

この時期鈴木商店の躍進には目覚ましいものがあった

それは大正という新たな時代の訪れにあたかも呼応するがごときであった

御一新からの長かった明治が終わって時代は大正へ……
これからどんな世界になるんかできるところまで見届けさせてもらいましょかね
鈴木の快進撃は始まったばかりじゃ
世界は広い我らが先陣に立ち開拓する
外国に頼らない日本の産業自分たちのモノづくりこそが
真の産業革命だ

日本綿花社長・佐野常樹の養父・佐野常民は佐賀の7賢人であり日本赤十字の創設者

佐野常樹

日本綿花初代社長の佐野常樹(旧名:浅見四郎)は二本松少年隊士として戊辰戦争を戦った。その後、官の道に入り、農商務省、内務省、外務省の参事官、書記官を歴任。内務省時代には殖産興業を推進する担当者として、また、日本の技術的発展を諸外国にアピールするため、明治政府が初めて正式に参加した万博である明治6(1873)年開催のウィーン万国博覧会などにも随行している。

明治6(1873)年5月～10月に開催されたウィーン万国博覧会

佐野常民

一方、佐賀藩出身の佐野常民は、三重津海軍所で国産初の実用蒸気船「凌風丸」を完成させ、また、日本赤十字社の前身となる「博愛社」を設立するなど佐賀の7賢人の一人として名高い。常民は、博覧会御用掛に就任し、ウィーン万国博覧会に副総裁として派遣され、その後、日本での内国勧業博覧会実現に向けて尽力している。

その常民の実務を支えていたのが佐野常樹であり、常民は彼の実力を高く評価し、娘の糸千代と結婚させ、婿として迎え入れている。大阪の紡績業界の幹部や豪商も、海外事情に精通し、佐野常民、そして渋沢栄一らの政財界のつながりを期待して、佐野常樹に日本綿花初代社長就任を要請したと見られる。なお、日本綿花が設立された明治25(1892)年の農商務大臣は佐野常民である。

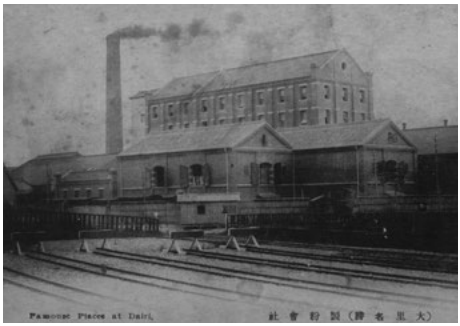
北九州市大里地区に現存する鈴木の「王国」

北九州市門司区大里（だいり）は、鈴木商店が神戸の次に大規模進出を果たした地である。また、対岸の彦島にも鈴木商店の工場群があり、金子直吉は神戸と関門海峡は鈴木のマークで埋めると豪語した。良質な水、豊富な労働力、筑豊の石炭が狙いであり、交通の面でも魅力的な地で、金子直吉は「商売の基礎は地理的条件が必要だ」と名言を残している。

市史では「日露戦争後、北九州工業地帯の輪郭を取りはじめた。大きな要因が中央資本の進出にあった。最も目覚ましい動きを示したのが、神戸の鈴木商店の大里…」と鈴木商店の進出の経緯を詳しく解説している。大里には、大里製糖所（現・関門製糖）、大里製粉所（その後、現・ニップンに合併）、帝国麦酒（大日本麦酒を経て、現・サッポロビール）、大里酒精製造所（現・ニッカウヰスキー門司工場）、神戸製鋼所門司工場（現・神鋼メタルプロダクツ）、日本冶金（現・東邦金属）、その他にも製塩所、精米所、精錬所などがあった。一部の企業では、現在でも鈴木商店時代の建物を活用している。

北九州市のWebサイトには、「北九州市門司区大里地区ガイドマップ」が掲載され、「大里に「王国」を築きあげた鈴木商店」と題して、鈴木商店関連史跡を紹介している。同地区の住宅街の一角には、鈴木商店の境界杭を見ることができ、町のいたるところで鈴木商店の威光を感じることができる。

現在の関門製糖（旧・大里製糖所）



大里製粉所（その後、現・ニップンに合併）

大里製粉所時代からの倉庫。現在はニッカウヰスキー門司工場（旧・大里酒精製造所）が使用

北九州市大里地区に現存する鈴木の「王国」

帝国麦酒（現・サッポロビール）

門司麦酒煉瓦館

鈴木商店の境界杭

神鋼メタルプロダクツ内にある境界杭

門司麦酒煉瓦館とサクラビールの復刻

鈴木商店時代の建造物で一際目を引くのが門司麦酒煉瓦館である。大正2（1913）年、帝国麦酒は九州初の大規模ビール工場として設立され、サクラビールのブランドとして国内で第3位のシェアを誇り、さらには鈴木商店のネットワークを通じ世界中に輸出された。本建物は、サッポロビール門司工場として2000年までビールの製造を続けた。現在は北九州市の施設として、鈴木商店時代からのビールの歴史を伝えるミュージアムとして親しまれている。

2020年にはサッポロビールよりサクラビールが復刻販売された（2021年、2022年春にも限定販売された）。

現在の門司麦酒煉瓦館

受け継がれるインドとの関係
～日本のODA史上最大規模のプロジェクトにも発展

日本綿花の創業後の綿花の調達はインドからであり、若手の喜多又蔵がボンベイ（現・ムンバイ）に派遣された。当時、インドには日本人はわずか40人しかいなかったといわれるが、大正期にはインドでの駐在員は100名を超え、日本の商社の中でも最大級の陣容を誇った。

1948年には戦後初めての通商使節団がインドに派遣され、日綿實業（1943年に日本綿花から社名変更）取締役の福井慶三（後の11代社長）が参加し、インド・パキスタンからの綿花輸入の買い付け商談をまとめ、両国間の貿易再開に向けて尽力した。

戦後初の通商使節団としてインドに向かう日綿實業の福井取締役（右から2番目。後の11代社長）

1957年にはインド国鉄の電化工事（アサンソール～ルールケラ間の約112キロ）を日本国有鉄道（国鉄／現・JR）と共に受注し、これは日本の鉄道の技術向上につながったともいわれている。また、ニチメン（1982年に日綿實業から社名変更）が手がけた工業塩ビジネスは現在の双日にも受け継がれており、日本、アジアのソーダ工業の発展にも寄与している。

鈴木商店にとってもTATAグループと銑鉄の取引を行うなどインドは重要な国の一つであった。日商岩井時代には、日本向け鉄鉱石、製鉄プラントの他、自動車産業の育成にも貢献。双日発足以降はチェンナイ市近郊にて工業団地の開発も手がけている。

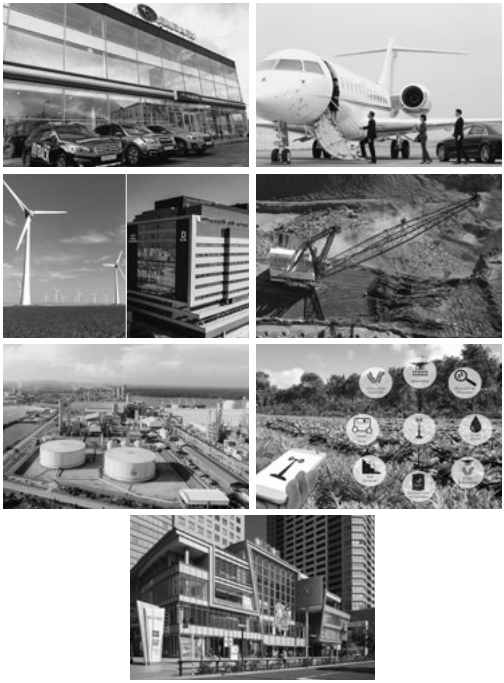
デリー・ムンバイ間貨物専用鉄道鉄道敷設プロジェクト（部分開通時の試運転）

2013年以降、デリー・ムンバイ間貨物専用鉄道の軌道・電化・信号・通信工事、計6契約を受注し、その累計は円借款として過去最大規模となる3,500億円超。本件は、民間企業が手がける鉄道インフラ案件では世界最長の約1,500キロにわたる工事となり、日本政府が進めていた「質の高いインフラ輸出」戦略に合致した案件として注目されている。

戦前まで使われていたボンベイのコットンハウス。インド奥地で買い付けた綿花をえり分けたり計量したりした自社専用倉庫ビル。石造りのビルの正面壁面にはJAPAN COTTON TRADING CO LTD（日本綿花株式会社）の名が刻まれていた（すでに取り壊されている）。

第2次大戦まで使用していたボンベイ店長のゲストハウス

双日は現在、全世界に400以上のグループ会社を有し、自動車、航空産業・交通プロジェクト、インフラ・ヘルスケア、金属・資源・リサイクル、化学、生活産業・アグリビジネス、リテール・コンシューマーサービスの7本部体制で、広範・多岐にわたる製品の製造・販売や輸出入、サービスの提供、各種事業投資などをグローバルに展開しています。



Hassojitz

総合商社 双日 未来を創造した先駆者たち
～第2巻 黎明～

2022年10月　第1刷発行
発行　双日株式会社
〒100-8691
東京都千代田区内幸町2-1-1
画　すずきんかりお
関連サイト　https://www.sojitz.com/special_site/pioneer/

無断複写・複製・転載を禁じます

本マンガ制作にあたっては、本巻に登場する多くの取引先企業、鈴木商店記念館、大阪企業家ミュージアムの皆様にご協力いただきました。
厚くお礼申し上げます。

sojitz

New way, New value

本マンガは、双日のWebサイトに第1巻より順次掲載
https://www.sojitz.com/special_site/pioneer/